



50周年企画II パネルディスカッション

8月25日(日) 9:00-10:30第2会場

地方会の歩みと これから



北海道地方会



九州・沖縄地方会

40年の地方会のあゆみとともに
今後の地方会や
研究学会のあり方を議論します



東海地方会



近畿・北陸地方会



中国・四国地方会

奈良県コンベンションセンター



地方会の歩みとこれから

パネルディスカッションの主旨

日本看護研究学会は、1985年に地方会の制度を決定し、近畿四国地方会（のちに近畿北陸、中国四国地方会に地区再編）が1986年に、北海道地方会が1992年に発足しました。現在、北海道、東海、近畿・北陸、中国・四国、九州・沖縄の5つの地方会があります。それぞれの地方会の会員数に基づき、地域の実情に応じた運営が行われています。看護系の学会で、地方会があるのは本学会だけであり、それが、本学会の特徴にもなっています。

もともと、地方会は、若手研究者を育成するために、研究に取り組める場を身近に提供する意図で設立されました。本学会の学術集会とは別に、地方会ごとに、毎年、研究に関するセミナーや学術集会を活動してきたのは、このような理念の底流があったからです。このように、身近に日本看護研究学会を感じ、日ごろの看護で感じる問題意識を研究に発展させること、自分の看護実践・教育実践を見直すこと、ネットワークを広げて個人のキャリアを進める手助けをすることなど、地方会が担う役割は、まだまだたくさん考えられます。本企画では、地方会の歩みとその意味を振り返ることで、地方会が担っている役割を確認したいと思います。

とはいえ、地方会の設立から40年が経過し、地方会の運営にも様々な課題が生じています。そこで、学会設立50年の節目として、今回の企画では、それぞれの地方会の活動の現状と課題を共有し、地方会の今後のありようを議論することで、引いては本学会全体のさらなる発展を目指したいと思います。

40年の地方会の歩みの先に、どのような地図を描けばよいのか、ポジティブなこともネガティブなことも議論のテーブルに乗せ、会場の皆さんと忌憚のないディスカッションをしたいと思います。それが、看護の未来を考えることになると思います。多くの方のご参集をお待ちしています。

パネリスト

- ・北海道地方会： 山田律子（北海道医療大学）
- ・東海地方会： 白尾久美子（日本福祉大学）
- ・近畿・北陸地方会：若村智子（京都大学）
- ・中国・四国地方会：中西純子（愛媛県立医療技術大学）
- ・九州・沖縄地方会：長家智子（元佐賀大学）

座長

- 泊 祐子（四天王寺大学）
- 内田宏美（森ノ宮医療大学）

